

〈巻末言〉

ロボット雑想

鈴木 豊

私がロボットと聞いて思い浮かべるのは、自分が子どもの頃に見ていたテレビアニメの「鉄人 28 号」になります。正太郎少年がリモコンで鉄人を動かして悪党をやっつける、くらいに記憶していました。

あらためて調べてみると、鉄人は日本軍が太平洋戦争の末期に開発した秘密兵器で、終戦になり使われなくなっていたところ、昭和 30 年代になって発見され一時は犯罪組織のものになってしまいますが、リモコンが正太郎少年の手に渡った途端に正義のロボットとして活躍し、逆に悪党どもを懲らしめる、という意外に奥の深いストーリーであることがわかりました。

鉄人 28 号の時代には、ロボットは漫画や物語などまだ空想の世界のものでしたが、現代においては、この「ものづくり文化」で紹介しているとおり、産業や家庭、介護など様々な場面で非常に身近な存在となり、我々にとってなくてはならない「仲間」になっています。

ただし、いつの時代も、正太郎少年のような人だけがロボットのリモコンを操作してくれるとは限りません。ロボットが平和利用のためだけに開発・製作され、我々の「仲間」として存在し続けてくれることを願うばかりです。

さて、いくら高度になったとしても、ロボット自身が本を読む習慣を身に付けることはないでしょう。皆さんは、ぜひ「県川」でロボットの本を手にとってみてください。

すずき・ゆたか
(神奈川県立川崎図書館長)

ものづくり文化

第 64 巻 (通巻 193 号)
令和 5 年 3 月 1 日 印刷発行

編集兼 神奈川県立川崎図書館
発行人 館長 鈴木 豊

川崎市高津区坂戸 3 丁目 2 番 1 号
KSP R&D 棟 C-225 (〒213-0012)
電話 (044) 299-7825 (代表)
FAX (044) 322-8878

印刷所 野崎印刷紙器株式会社